

# 絶対音感を養って 言語能力を発達させる

「絶対音感」を身につけると、言語能力を高めることができるという。このことを知る人は意外に少ない。短時間の勉強でも、ぐんぐん吸収できる「かしこい脳」を育てる音楽教育とは？

## 6歳までの「感育」が 左脳の発達を高める

「絶対音感」とは、「将来、音楽の世界で一流を目指す人が身につける特殊な能力」と思っていないだろうか？  
実は、絶対音感が言語能力や数学的な論理力をつかさどる左脳を伸ばすという研究が続いている幼稚園がある。  
幼児の音楽教育に力を注ぎ、ほぼ全員が卒園までに絶対音感を身につけているという千葉県・布佐台幼稚園だ。  
水野克己副園長はいう。  
「絶対音感を持っている人の脳は、持っていない人の脳と比べて左脳の側頭平面が約2倍も大きくなっています。この部分は言葉を扱う領域とも重なっているため、言語能力や広い意味での知性に影響していることが、ドイツの学者の研究でわかっています」  
実際、卒園児の中には、語彙の豊かな

子が多く、小学1年生で高学年並みの読書力がある子も少なくないという。  
同園が実践する「ミュージックステップ」は、沖縄生まれの音楽教育システム。ミュージックステップの開発者、譜久里勝秀さんも、音楽教育が左右の脳をバランスよく育てると強調する。  
言葉で「考える」よりも「感じてわかる」感覚吸収に優れた5歳半までの幼児期に、絶対音感の習得を通じて耳や体で「感じる」体験をしている子は、右脳の芸術センスとともに、左脳の論理的・分析的な思考力が後々に大きく飛躍するという（左頁図参照）。  
十分な学習能力を発揮するためには、幼少期の音楽を「感じる」教育、「感育」が大事というわけだ。  
音感の定着には「短時間毎日続ける」がカギ  
実際、「音感教育」はどのように行

鍵盤ハーモニカで演奏する際、アイマスクをするのは「音に集中し、指先の感覚を磨くため」。



同園は、東京都合唱連盟主催のヴォーカルコンテストで毎年入賞するほどの腕前。合奏は交響曲なども演奏する。

われているのだろうか。布佐台幼稚園の子どもたちを訪ねてみた。  
「準備はいいですか！」「はい！」  
教師の歌に合わせて、年少の子どもたちが手を肩や腰にリズムよくあてる。一見お遊戯に見えるが、これは肩が「ソ」お腹が「ミ」など各部位が音階を表し、音を体で表現する音遊びだ。  
次は鍵盤ハーモニカ。教師に続いて子どもも簡単なメロディを演奏する。音が外れたり指使いが間違っても、細かい注意はない。子どもたちは音を聞き逃すまいと、驚くほど集中している。  
「絶対音感が身につくとどんな楽器でも演奏できるようになります。ただ目標は、楽器を弾けるようになることではなく、音感教育で集中力や自主性を育むこと。そのためには短時間でもできるだけ毎日音楽にふれ、心から楽

しむ体験が大切です」（水野副園長）。  
では、家庭で音感を鍛えるにはどうすればいいのだろうか。また、絶対音感を獲得するには5歳半までの時期が大切といわれる。それを過ぎている子どもは、音感を深められないのだろうか。  
「8歳くらいまでは音楽への感受性も高い時期ですから、あきらめずに幅広く音楽に親しむといいと思います。親子でリズムに合わせて手をたたいたり、踊ったりして一緒に楽しむことが大事です」と水野副園長。  
言語能力を伸ばすためには、幼児期の音楽体験が大きな影響を及ぼしているようだ。学習脳の基礎を作るためには急がば回れ。親子で演奏や作曲をしたり、食事時間にクラシック音楽を流すなど、日頃から音楽を「感じる」習慣を身につけよう。



音の世界に集中！慣れてくると複雑な和音でも、一度聞くだけで音を正確に言えるようになる。

## 布佐台幼稚園が実践する 絶対音感をつける 3ステップ

### 1 目覚ましタイム

★外遊び ①15~20分  
園庭でかけっこをしたり、森の中のアスレチック、マット運動などで朝一番に体をたっぴり動かす。その後の活動の集中力を高めるために、脳や体をスッキリと目覚めさせる。

### 2 クールダウンタイム

★立腰 ①3~4分  
いすに姿勢よく座って、運動で高揚した心身をクールダウンさせる。座面に対して腰を垂直に立てる「立腰」の姿勢をとると、脳への血流が増える。α波の出やすいクラシック音楽を聞きながら、目を閉じてリラックス。

### 3 音楽活動

★ミュージックステップ ①20~30分  
年齢や段階にあわせたカリキュラムに沿って、身体反応（歌に合わせて音階別に音を手の位置で表す）、聴音、聴唱、和音唱、鍵盤奏、聴奏などを20分間でテンポよく行う。年少児は高い音、低い音を実感したり、「ド」と「ソ」の聴音などからスタートし、年長児になると♯（シャープ）と♭（フラット）を含めたすべての音を聞き分け、歌や楽器で表現する力が育つ。

### 家庭での応用編 体を使った音階遊び

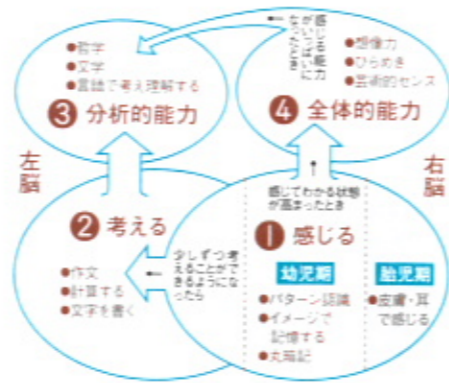
手を下ろして「ド」、腰で「レ」、お腹が「ミ」、胸で手をクロスして「ファ」、両肩で「ソ」、高い音ほど手が上に行く手遊び（身体反応）を覚え、歌に合わせて動いてみよう。

### 家庭での応用編 音当て遊び

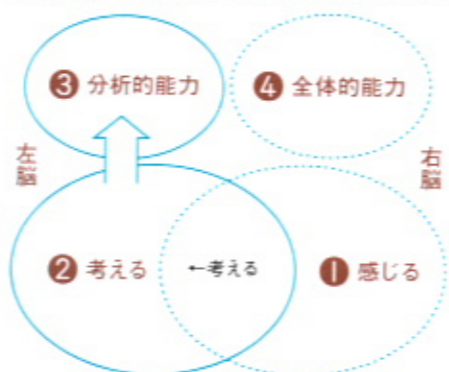
音階を知っている子なら、音を聴いて音階を当てる遊びも楽しい。まずは楽器で単音を出して音階を当てさせる。音に敏感になってきたら、和音に挑戦してみよう！

「感じる」体験を十分にしていれば、②や③のような精密な思考力もつき、最終的には④のイメージ力へもつながっていく（上の図）。逆に早期から「考える」ことを優先させると、創造力や感受性の欠いた人間になってしまう（下の図）。「この脳マップはミュージックステップの効果を知るための大切な資料です」と譜久里さん。  
※資料「どんな子も100%絶対音感がつく」譜久里勝秀著

### ●感育で育った人の頭脳マップ



### ●感育を受けていない人の頭脳マップ



### 取材協力 布佐台幼稚園

昭和54年開園。25年以上にわたり、脳科学に裏打ちされた音感教育（ミュージックステップ）と言葉の教育（石井式教育法）を実践。自然豊かな環境の中で、2〜5歳児の子どもたちが元気に活動している。